

学校再開に向けて ～緊急事態宣言解除を受けて～

昨日、新潟県に出されていた緊急事態宣言が解除されました。これにともない、様々な店舗や施設が営業を再開、また、その準備に取り組んでいます。

昨日、安部首相は、会見の中で、次のように述べています。少々長くなりますが、大切なことなので、要旨の一部を紹介します。

コロナの時代の新たな日常を取り戻す。今日はその本格的なスタートの日だ。業界ごとに感染予防のガイドラインを策定した。解除地域を中心に事業者にはガイドラインを参考に事業活動を本格化してほしい。ガイドラインもリスクをゼロにはできない。気を緩めた途端に一気に感染が広がり、全てをかつてに戻した途端、あっという間に感染が拡大する。解除地域の皆さんに三つの願いがある。

第一は、少しずつ段階的にということだ。外出自粛はお願いしないが最初是人との面会を避ける、電話で済ませるなど人との接触をできる限り減らす努力は続けてもらいたい。県をまたぐ移動は少なくとも今月中は可能な限り控えてもらいたい。段階的に日常の暮らしを取り戻すようお願いする。

第二は前向きな変化は続けてほしいということだ。この1か月でテレワークが普及した。改善すべきは改善し、前向きな変化を継続してほしい。時差通勤なども続けてもらいたい。

第三はウイルスへの警戒を怠らないでもらいたいということだ。こまめな手洗いはもとより、人と人との距離は十分に取って密集を避ける。外出時は必ずマスクを着用し密接はできるだけ避ける。接待を伴う飲食店、バーやナイトクラブ、カラオケやライブハウスの出入りは今後も控えてほしい。

元の日常に戻りたいという気持ちはみんな強いだろうが、ワクチンや治療薬が出現するまで少しずつ進むことだ。間違いなく日本は終息への道を進んでいる。

「新たな日常」と「元の日常」が対比的に示されています。緊急事態宣言の解除は、終息宣言ではない、危機は続いていること、すなわち、「元の日常」に戻れるということではないということが強調されています。

医師会、疫学の立場の方からは、「解除は早い」という意見もあったと聞きます。しかしながら、社会的な存在である人間が、「生きる」ということ、その「命」ということは、生物学的なそれだけではありません。働くということ、経済活動を進めるということも、「生きる」ということであり、「命」そのものであるという視点も不可欠です。

この緊急事態宣言の解除によって、当然、高志中等教育学校の休校措置や学校再開に向けた取組も変わってきます。正式には、新潟市教育委員会の判断、通知を待つこととなりますが、すでに、県立学校では、「分散登校の回数を増やすこと」から、登校時間、登校回数を

さらに増やしなが、1教室20人以下を目安とした学校における学習指導などを段階的に取り入れていく方針が検討されているとのこと。これらを参考にしながら、これまで示してきた5月末まで予定されていた分散登校の日程を見直すことといたしました。

詳細については、各学年からの連絡を見ていただきたいと思います。当面、22日までの予定を示させていただきますが、このような事態の中ですので、週内であっても急な変更となる可能性もありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

学校再開は、「元の日常」に戻るのではなく、「新たな日常」の延長線上にあります。厚生労働省が示す「新しい生活様式」を踏まえた「感染防止を怠らない」日々の生活の中で、「少しずつ段階的に」様子を見ながら、また、取り組み方を工夫しながら、一人一人がしっかりと感染防止の意識をもちながら、学校生活を行っていく構えが必要です。そして、かつてのスペイン風邪の流行が歴史的に示しているように第2波、第3波に備え、「前向きな変化」を続け、より確かな力としていかななくてはなりません。在宅学習で培った自ら学ぶ姿勢、あるいは、ICTを活用した学びの在り方は、新しい時代を生き抜く大切な資質・能力につながるものです。

どんな状況の中でも、人間は、学び続けることができます。ある生徒は、休校中、ストレスはあるが、家の方が学習は、はかどったと言っていました。続けて、「では、ずっと家で勉強しますか？」と尋ねると、「いえ、やはり学校があった方がメリハリはあるし、仲間と学ぶ方がいいです。」と答えていました。家庭学習が大切であること、自分で学ぶことが大切であることはもちろんですが、学校で、みんなと一緒に取り組むことでしか学べないこともあります。

本日、みなさんには、生徒総会の議案書が配信されると聞いています。

休校中、知恵を出し、ときには登校して相談し、作り上げた議案書です。学校生活をよりよくしよう、高志中等教育学校をよりよい学校にしていこうという気概を感じる新たな提案がたくさんあります。心して読んでほしいと思います。来週の登校日には、生徒会のみなさんからの議案説明の映像も用意されているそうです。この状況の中で、平常時以上の取組をしてくれた生徒会のみなさんには、本当に頭が下がります。

「コロナ時代の新たな日常を取り戻す」その意味をしっかりと噛みしめ、考え、一日一日を確かに進めてほしいと思います。

学校再開に向けてどのように取組んでいくか、どのように学校を再開するか、まだまだ課題はたくさんあります。はっきりと決められないこともたくさんあります。急な変更やお願いをすることもありますが、共に知恵を出し合い、感染拡大を防ぎつつ、よりよい「新たな日常」となるよう取組んでいきましょう。